

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 19 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520170

研究課題名(和文) 日本政治漫画における諷刺の限界～日米諷刺漫画の比較的研究 9 - 11 から 3 - 11 まで

研究課題名(英文) Japanese Political Cartooning and the Limits of its Satire: A comparative study of Japanese and American satirical cartoons from 9.11 to 3.11

研究代表者

Stewart Ronald (Stewart, Ronald)

県立広島大学・生命環境学部・准教授

研究者番号：30458088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近年の日本と米国における新聞政治漫画のテーマと内容を比較分析し共通点と相違点を考察する。2001年から2012年にかけての日米新聞政治漫画を14,000以上をデータベースに収めて、研究を深めるために震災・人災というテーマに絞って日本の新聞政治漫画が比較的により数少ない、書き方がより単純、風刺の対象がより限られて、風刺性もより弱いことを明白する。さらに、他のメディアに発表された日本政治漫画とも比較し、日本の全国新聞政治漫画の風刺が持つ形式的、文化的、実際的な限界の理由も明らかにする。

研究成果の概要(英文)：This research makes a comparative analysis of recent Japanese and U.S. newspaper political cartoons and elaborates the main similarities and differences. By collecting over 14,000 newspaper political cartoons from between 2001 and 2012 made into a database, and by then focusing of cartoons related to disasters, the study makes clear the that Japanese newspaper political cartoons are fewer in number, simpler in design, much more limited in the targets for their satire, and their satire is also comparatively weak. In addition the study compares national Japanese newspaper political cartoons to those found in other media in Japan, and these comparisons it makes clear the cultural, formal and practical reasons for the limited satire in Japanese newspaper political cartoons.

研究分野：人文学

キーワード：政治漫画 風刺漫画 新聞漫画 一コマ漫画 日米比較文化研究 表象論 風刺

1. 研究開始当初の背景

新聞の中の政治漫画には二つの基本的な機能がある。一つは娯楽として、面白さやユーモアで新聞読者を喜ばせる機能である。もう一つは、事件あるいは状況に関してコメント(批評)することである。この絵と文字によるコメントを通じて、政治漫画が議題設定という重要な役割を果たせると思われている。換言すれば、政治漫画が注目すべき政治的・社会的問題にスポットを当て、その問題についての公的な議論を刺激することにより、社会に貢献する。人々の注目を問題に集めるための政治漫画が持つ一番有効な方法はユーモアのある批判、つまり風刺を使うことである。しかし、日本の新聞政治漫画は数が少なく、取り上げる問題の範囲も比較的狭い上、風刺性が弱い。風刺のない解説図的なものが多く、ほとんどが有意義な批判も提供せず、政治的・社会的問題における公的な議論にもあまり貢献していない。2011年3月11日の震災後、特に福島第一原子力発電事故後の様々の問題に対してもこの無力さは明らかであり、新聞政治漫画家は政府、政治家、企業、市民などの行動を積極的に問わなかった。

この十数年間、日本の新聞政治漫画の衰退が何回も指摘されてきた。日本の総選挙関係の新聞政治漫画における政治家の表象についての先行研究が若干あるが、この衰えていく状態とその理由を具体的に調査し明らかにする研究がほとんどない。本研究ではその第一歩として日本新聞政治漫画の現状と限界を明らかにし、その理由も論じるのが目的である。

2. 研究の目的

本研究は、近年の日本と米国新聞政治漫画における環境、構造と内容を比較分析し共通点と相違点を考察する。それとともに、日本の新聞以外の政治漫画とも比較し、漫画家の意

見に照らし、日本の新聞政治漫画の風刺が持つ形式的、文化的、実際的な限界の理由を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究を進める為に次の方法を使用した。

(1) 比較分析する対象となった日本と米国の新聞政治漫画を集めて、スキャンし、分析をより簡単にする為にデータベースを作った。米国と日本に大きな社会的、政治的な変化をもたらした9.11多発テロ事件と3.11東日本大震災と原発事故を含めるように、対象とした漫画は2001年から2012年にかけてのものである。日本の新聞政治漫画は日本の三大紙と呼ばれている全国紙(読売新聞・朝日新聞・毎日新聞)からのものである。米国の新聞政治漫画は主に、地方紙からのものであり、インターネット上の新聞漫画配給業と漫画家連盟のサイトから集めた。3年の研究期間で、合わせて14,000枚以上の新聞政治漫画をデータベースに収めた。

(2) データベースを作りながら比較分析を進めた。日米新聞政治漫画における環境(新聞漫画産業の状況、漫画家の数、漫画の掲載される頻度、新聞の中の位置など)、形式・構造(漫画の大きさ、色使い、書き方)および内容(テーマ、批判の対象、風刺の強さ)の面で主な相違点を考察した。そして、分析方法を磨くために両国の新聞漫画の歴史的な背景および漫画分析方法についての先行研究、そして両国の漫画界をより深く知る為に政治漫画家のインタビュー記事を集めて参考にした。

(3) より深く比較するために両国の新聞政治漫画をテーマ別に比較し始めた。この3年間、主に震災・人災というテーマ(特に2011年福島第一原子力発電所の事故と2010年米国のメキシコ湾にあったBP社の石油ブラッ

トフォームの爆発と油流出事故)に絞って比較を進めた。その中に3つのより細かいサブテーマ(1. 政府の責任とリーダーシップ、2. 企業の責任、利益と安全、3. 国民の責任と被害)における相違点と共通点を探った。

(4) 尚、日本の全国紙の新聞政治漫画はどのくらい代表的なのか、日本の漫画の中にどんな特徴があるのかを考察する為に、視野を広げて、地方新聞、週刊誌、小規模の刊行物の震災に関する政治漫画も比較し、いくつかの漫画家協会の一コマ漫画展示会にも足を運んで、展示された漫画を見て、漫画家と話した。

(5) 研究の成果を学会等で発表してフィードバックを得て、論文として学術雑誌に投稿する。

4. 研究成果

本研究で成し遂げた成果は下記の通りである：

(1) 日本と米国の新聞政治漫画の共通点と相違点をいくつか明らかにした。例えば、共通点の一つは、震災・人災における政治漫画の基本的な反応とその変遷である。両国の場合、最初はほとんどが政府対策を支援する漫画、および被災地・被災者へ同情したり応援したりする漫画である。その後、被災地の復興と被災者の支援が不足して遅れていると政府の対策と政治家を批判する漫画が増える。数ヶ月が立つと、全国紙および被災地から離れている地方紙に掲載されている政治漫画の関心が被災地・被災者の問題から薄くなり、被災地の地方紙の漫画だけが被災関連の重要な問題を取り挙げ続ける。日本と米国の新聞政治漫画の相違点となると、米国の新聞政治漫画の方が数がより多くて、報道されるスピードがより速い、視野がより広い(日本の政治漫画が注目する政界に限られた問題で

はなくより広い意味の社会における「政治」の問題を扱う)、タブーのテーマがより少ない、風刺がより攻撃的で、日本の新聞政治漫画よりもメディアにおける役割を果たしており社会に貢献している。この比較研究の成果は2013年の『海外の新聞マンガの世界』シンポジウムで発表し、2015年の米国オークランド市で開催される国際ユーモア学会にも発表する予定である。そして、今年末に学術雑誌に投稿する論文を執筆している。

(2) 日本全国紙の新聞政治漫画とそれ以外のところに発表されている日本政治漫画(地方新聞、週刊誌、他の小規模の刊行物、ネット上の画像投稿サイト、漫画団体の展示会)と比較し、全国紙の新聞政治漫画の限界を明らかにした。全国紙の漫画以外の政治漫画はもっと多様性を持ち、もっと辛辣な風刺も使うので、全国紙の政治漫画の弱い風刺性と書き方は単なる文化的な理由だと言えない。全国紙の漫画以外の政治漫画との比較とその可能性について5つの学会で発表し(2012年に韓国の東国でのMechademia学会、2014年にニュージーランド国立図書館でのAHSN学会、上智大学でのASCJ学会、京都精華大学での日本マンガ学会、2015年にフィリピンAteneo De Manila大学での国際シンポジウム)、2つの論文も学術雑誌に投稿し2015年5月に掲載することになった。

(3) 本研究のために作成した14,000枚以上の日米新聞政治漫画が入ったデータベースはこれからも使い続け、他のテーマにおける政治漫画を比較し、より掘り下げた研究をする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

STEWART, Ronald. "Breaking the Mainstream Mold: the birth of a local political cartoonist in post-3.11 Japan." *European Journal of Humour Research*, Vol.2 no.4, 2014 (online July 2015) 査読有 (<http://www.europeanjournalofhumour.org/index.php/ejhr/index>)

スチュワート、ロナルド「トゲのあるポスト3.11 日本政治漫画：新聞以外のカートゥーンとその可能性」『国際マンガ研究 (Global Manga Studies)』第5巻、2015年7月査読無

〔学会発表〕(計7件)

STEWART, Ronald. "Post 3.11 political cartooning with a bite" 3rd Mechademia Conference, 韓国ソウル市、東国大学、2012年12月1日

スチュワート、ロナルド「被災のテーマを通じて近年の日米政治漫画の比較」日本マンガ学会の海外マンガ交流部会6回例会とカートゥーン部会第1回研究会『海外の新聞マンガの世界』シンポジウム、京都市、京都国際マンガミュージアム、2013年6月23日

STEWART, Ronald. "An Angry Voice in a Sea of Silence: the birth of a local cartoonist in Fukushima, Japan." 20th Australasian Humour Scholars Network (AHSN) Colloquium "Anything Goes?" ニュージーランド、ウェリントン市、ニュージーランド国立図書館、2014年2月13日

STEWART, Ronald. "A Fukushima Newspaper Cartoon Perspective: a reflection on the role of cartoonists post 3.11." 18th Asian Studies Conference Japan (ASCJ), 東京都、上智大学(四谷キャンパス)、2014年6月22日

スチュワート、ロナルド「新聞政治マンガと地域貢献の可能：3.11後『福島民報』の「震災絵日記」をモデルとして」日本マンガ学会第14回大会、京都市、京都精華大学、2014年6月28日

STEWART, Ronald. "Manga-esque in a Single Frame: an exploration of the bounds of Japanese "irasuto" and cartoons." *Manga and the Manga-esque: New Perspectives to a Global Culture*, the 15th

Annual International Conference on Japanese Studies, フィリピン、マニラ市、Ateneo De Manila University, 2015年1月22日

STEWART, Ronald. "Political Cartoon Commentary and Disasters: A Comparative Study of Japanese and U.S. Cartoons." 27th Annual International Society for Humor Studies (ISHS) Conference, 米国、オークランド市、Holy Names University, 2015年7月3日(予定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

STEWART, Ronald (STEWART, Ronald)

県立広島大学・生命環境学部・准教授

研究者番号：30458088